

青松とちぎ

新潟大学 人文・法・経済学部同窓会 栃木県支部会報



2020.5.15 第3号

発行責任者 藤沼哲史

事務局 〒320-0821

宇都宮市一条 3-2-31

総会・懇親会は次回に持ち越しへ

新潟大学人文・法・経済学部同窓会栃木県支部

支部長 藤沼哲史

会員の皆さん、いかがお過ごしでしょうか。

「新型コロナウイルス」による感染が世界中に拡大し、わが国でも大都市圏だけでなく地方にも感染が広がっています。

今日のグローバル社会では、膨大な人や物の流れが世界中を駆け巡り、一たび感染に火が点けば一瞬で全世界に拡大するのは目に見えています。

百年ほど前に世界中を席卷した「スペイン風邪」の再来のように、世界規模で今も多くの人命が失われています。

4月には国の緊急事態宣言が全国に拡大されましたが、5月中旬頃には一部都道府県を除き解除さ

れています。感染者数も減少傾向が続く、間もなく第一波も収束に向かうのではとの印象です。

自粛が続く中感じたことですが、規制対象外だったホームセンターやスーパーでは大勢の人たちが買い物をしていました。レジ周辺の飛沫防止シートや間隔を開けた立ち位置の表示など、尋常ではない光景にもかかわらず、割と皆平然と振舞っていました。

東日本大震災のとき、被災者たちが整然と列に並んで物資や食料を受け取る姿に、世界中から賞賛の声があがったものですが、今回は状況が異なるとはいえ、決められたルールに皆淡々と従う光景は

やはり国民性なのではないでしょうか。

とにかく有事であるので、三密(密閉・密集・密接)の状況や不要不急の外出を避けるなど、発想を変えて

自らの行動を律するいわゆる「行動変容」なるものを一人一人が実践することは大変重要なことと思います。

但し、今回、長期戦を視野に入れて専門家会議が提唱した「新しい生活様式」という言葉には多少の違和感を覚えます。「感染症対策のための閉塞した生活が半永久的に継続するのではな

いか。」と連想されたからです。しかしその中身は、人との距離、せきエチケット、仕事ではテレワーク、時差通勤などに関する行動パターン」あるいは「日常生活の注意事項」であることから、



令和元年度総会の模様 新潟の思い出を語る入江吉晴氏

できれば何か別の安心できる表現をしてもらいたいと思った次第です。

一方メディアではこれまで、行政の休業要請に従わないパチンコ店や開店時の多くのパチンカーの姿、また、県外からのサーファーで賑わう海岸等が報道されるなど、強制力がないことや、休業補償がないことなど、様々な不備が指摘

される今の「特措法」を根拠に動かざるを得ない行政、特に都道府県等自治体の苦勞、奮闘に注目が集まりました。諸外国と異なり、罰金刑や身体拘束を伴う強力な規制措置がないわが国の法体系の中で、果たして今回の「ゆるい規制措置」によって、国民の生真面目な自己規制と衛生観念を頼りに、これらの感染症に対抗していくのは、なかなか困難な話かと思いません。



令和元年度総会…学生歌斉唱

みはるかすウ 越の山並みイ

私たちは医療従事者にエールを送りつつ、専門家の知見・判断に基づく為政者の果敢で的確なリーダーシップや、その他国政に携る人たちの良識とスピード感のある現実的な行動を期待するものです。勿論自己規制しながら、

このような状況の中、感染の拡大・収束の状況は不透明であり、第二波以降も覚悟する必要があるとの見方もあります。

そこで、多くの皆さんの感染の機会を少しでも避けるべく、苦渋の決断として今年度の総会・懇親会は中止とさせていただきます。

皆さん、どうか賢明な生活スタイルを貫いて感染のリスクを避け、次回、元気な姿でお会いしましょう。

青春をスキーに懸けて

平成21年経済卒 和田 友実子



(筆者近影)

皆さん、こんにちは。私は、平成21年に経済学部経営学科を卒業した和田友実子といたします。

私が新潟大学に進学した理由にはいくつかありましたが、実はその中でもっとも大きな理由が「スキー」をしたという思いがあったからです。引越してから雪が少ないところと知って愕然としたのですが…

本来、勉学に充てるべき時間を相当スキーに費やしました。同じ学科の友人には迷惑をかけてしまいました。が、本当に良い友人を持てたなど未だに感謝しております。



北関東大会後の栃木県メンバーで

大学時代は毎シーズン、他大学の皆さんと寮生活をしながら、スキーのインストラクターとしてアルバイトをしております。初めての寮生活は本当に毎日が勉強勉強…社会人としての礎を築いたのはこの寮生活と言っても過言ではありません。そして、そのような生活をともにした仲間も今でも大切な仲間です。

そんな最高の4年間を過ごしたにも関わらず、スキーに対する思いを断

ち切ることができなかった私は、
 社会人になった今でも選手として
 スキーを続けています。

私が参戦しているのは「スキー
 技術選手権大会」というもので、
 簡単に言えば「日本一スキーがう
 まい人を決める大会」です。その
 ため、大会は一般のスキーヤーが
 滑るバーンで行われますが、そこ
 は大会、40度程度の急斜面であつ
 たり、コブがたくさんある急な斜
 面を誰よりも上手く速く滑らなけ
 ればいけません。

大会は、県予選から始まり、北
 関東大会、全国大会へとつながつ
 ていきます。おかげさまで、栃木
 県予選では7連覇を果たしており
 ます。全国大会まで行くと大会参
 加者には職業「スキーヤー」とい
 う人もいらつしやいます。これ
 からも精進し、いつか全国大会で
 30位以内というのが目標です（今
 はまだ70位くらいがベストです
 …）。

選手としての目標も大切にして
 いますが、「指導者」としての目標
 もあります。

現在、栃木県スキー連盟や宇都

宮スキー協会の役員として老若男
 女問わず、多くのスキーヤーの育
 成のため活動しております。指導
 者としての目標は漠然としたもの

ですが、たくさんの人にスキーを
 生涯スポーツとして続けてほしい、
 スキー人口をまた増やしたいとい
 うことです。

時代は変わり、移動時間もお金
 もかかるスキーは人気が低迷して
 いるスポーツですが、自分が愛し
 てやまないスキーに今一度活気を
 戻せたらと切に願っています。



宇都宮スキー技術選手権大会での滑り

➤ 支部会費納入のお願い

- ◇ 支部の活動を活性化し、より多くの同窓生の情報交換や交流を図って
 いくため、会費（年1,000円）の納入をお願いします。
- ◇ 同封の振替用紙で郵便局のATMから振り込んでください。

➤ 会報の原稿を募集しています

- ◇ みなさんの近況や学生生活の思い出等、投稿を歓迎します
- 【送り先】 〒320-0821 宇都宮市一条3丁目2-31 藤沼 哲史 宛
 e-mail: fujinuma@eco.ocn.ne.jp

ウォーキング同好会・課題は参加者募集



那須烏山市 龍門の滝にて

同窓会栃木県支部のウォーキング同好会は、一昨年度は、茂木町の焼森山、鶏足山登山とミツマタ群生地を巡るといって初めてのハイキングツアーを敢行し

ましたが、昨年度については同好会の公式行事を行うことは叶いませんでした。

その代わりというわけではありませんが、令和2年3月、緊急事態宣言



可憐な淡いピンク色の「いわうちわ」

が出る前に、藤沼哲史（昭和49年法卒）、広田満（同）、林良郎（教育学部）の3人で那須烏山市、那珂川町を巡るハイキングに行ってきました。

那珂川町富山地区では、「いわうちわ」の群生を見ることができました。

今年度こそ、コロナ禍が収まるのを待つて多くのみなさんが参加できる同好会活動ができればと考えています。

興味のある方は、支部長までお気軽にご連絡ください。

編集後記

通常より2週間遅れで第3号の発行にこぎつけました。本来なら総会への参加を呼びかける内容となるはずでしたが、パンデミックの前になすべがありません。

皆さんは在宅の期間をどう過ごされたでしょうか。編集子はテレビも見飽きてユーチューブ漬けの毎日でした。

みなさんへのおすすめは、「にいがたTV」というチャンネルです。新潟県内各地のラーメンを食べ歩く内容が多いのですが、新大食での人気メニューの紹介もあります。リポーター役のADふーちゃんのカラが独特なのが魅力の一つだと感じますが、コロナ感染の危険が去ったら、新潟へラーメンを食べに行くことを想像しながら日々を過ごしていました。

こんな状態になって改めて思うのは普段のあたりまえの生活がいかに有難いものであるかということです。一日も早く正常な普通の生活が戻ることを、さらには来年度総会が盛会となることを祈念します。